研究構想図

学校教育目標
考える子　（自主・自律、判断力、創造性）
明るい子　（豊かな心情、感性）
助け合う子（社会性、協調性、思いやり）
強い子　　（心身の健康、心身のたくましさ）

「特別な教科　道徳」の実施
今年度から教科となり、道徳教育全体の要として位置づけられている。児童が深く考え、話し合う道徳の授業づくりが必要である。

児童の実態
・他者の考えを聞く態度が身についてきており、共感性が高い児童が多い。
・自ら判断したり、行動したりする児童が少ない。

研究主題　たくましく　心豊かに生きる子の育成
～考え、学び合う道徳の授業を目指して～

研究仮説
児童一人一人が、よく考えたり、学び合いを通して互いの考えを受け止め合ったりする場を設定すれば、他者と関わり、自分自身を見つめ、たくましく生きる児童を育成することができるだろう。

≪道徳科の考え方≫

道徳的価値の再定義
（改めて考えること）
・児童がもっている道徳的価値や信念に揺さぶりをかけ、理解を醸成する。

内省
（振り返り）
・自分のやるべきことと現実の差を認識し、自分の弱さを受容する。

・教材上の人物、状況を自分のことに転移させて思考を進める。

転移
（自分ごと）

思考の発達を見取る目安

≪授業展開の工夫≫

【考える】
・短縮教材の使用
・問題解決型の授業展開

→

【学び合う】
・聴き合い
（個人→学び合い→再考）
・心のものさし

→

【表す】
・ワークシート
（ポートフォリオ）
・心のものさし